

令和6年度 第3回 戦略的な水環境管理のあり方検討会

議事要旨

1. 日 時： 令和6年9月18日（水）13：30～15：30
2. 場 所： （公財）日本下水道新技術機構 8階 中会議室（WEB 併用）
3. 概 要： 配布資料により事務局から説明が行われた後、季節別の計画放流水質の設定等を可能とする制度改正案等について議論が行われた。委員からの主な意見は以下のとおり。

○事務局から提示された季節別の計画放流水質等が設定された場合、下水処理場の運転管理により実現されるものであるとの認識だが、現行では計画放流水質に応じて終末処理場の構造が決定されるため、今回提示された制度改正案と政令に定める構造上の基準の取り扱い等については、並行して議論していく必要があると考える。

○季節別の計画放流水質の設定について、増加期は季節別の処理水質（期間平均値）を放流水質基準とする案の方が、運転管理が行いやすいと思われる一方で、期間終了後でないと期間平均値の評価ができないため、評価方法や超過した場合の対策を考えるべき。

○将来的には計画放流水質のあり方等について、海外制度等も参考にしながら、全体的に整合の取れた制度とできるよう議論できるとよいと考える。

○流域別下水道整備総合計画（以下、「流総計画」という）への季節別計画処理水質の設定や汚濁解析は、流総計画の目標年度におけるインプット条件により実施されるが、現況よりも公共用水域の水質が悪化しないことを確認する等により、流総計画の目標年度ではなく、すぐに栄養塩類の能動的運転管理を導入できるような枠組みも検討して欲しい。

○漁協や利害関係者も複雑になりつつあるので、栄養塩類の能動的運転管理については、これまでと同様に地域の合意形成をした上で要請を受けて下水道が協力しているという形が望ましい。

○季節別の計画放流水質の設定等の条件にされている汚濁解析について、今後、環境基準の生活環境項目の指標が変わる可能性等についても視野に入れつつ、解析規模や解析項目等の必要な汚濁解析のレベルについても今後議論いただければと思う。

○ N_2O 排出量の把握の重要性が増してきていると認識している。硝化抑制によって処理場からの N_2O 排出量は減少する可能性があるが、放流先でアンモニアの硝化反応が生じて、 N_2O が発生してしまう懸念がある。